



サステナビリティボンド 年次レポーティング

2026年 6 月
株式会社NANKAI



‘なんかいね’があふれてる



サステナビリティボンドの概要

- 当社は、サステナブルな経営を進めるべく、サステナビリティファイナンス・フレームワークを策定し、サステナビリティボンドを発行しました。
- その概要は以下のとおりです。

名称	南海電気鉄道株式会社第5 1 回無担保社債 (社債間限定同順位特約付) (サステナビリティボンド)
発行総額	1 0 0 億円
年限	5 年
利率	年 0 . 6 2 9 %
発行価格	社債の金額 1 0 0 円につき金 1 0 0 円
払込/償還期日	2 0 2 3 年 3 月 9 日 (木) / 2 0 2 8 年 3 月 9 日 (木)
発行時期	2 0 2 3 年 3 月 3 日 (金)
第三者評価機関	株式会社格付投資情報センター (R&I)
ストラクチャリング・エージェント	大和証券株式会社
主幹事証券会社	大和証券株式会社、野村證券株式会社、 三菱 U F J モルガン・スタンレー証券株式会社
取得格付	A - (R&I)
財務代理人	三井住友信託銀行株式会社



資金充当レポーティング

- 2023年3月に発行したサステナビリティボンドによって調達された資金の充当状況は、下表のとおりです。
- 2026年3月末までに全額を充当済であり、未充当残高はありません。

◆適格プロジェクト別の充当額と未充当額

事業区分	プロジェクト	充当額	未充当額
グリーン輸送 エネルギー効率	新型通勤車両8300系（6000系等代替）導入	2 3 億円	－億円
	9300系（旧泉北高速鉄道3000系代替）導入 ※1	4 億円	－億円
グリーンビルディング エネルギー効率	北大阪トラックターミナル 1 号棟	4 億円	－億円
	大阪府食品流通センターE棟	6 7 億円	－億円
雇用創出 社会経済的向上とエンパワーメント （地方創生・地域活性化）	泉北ニュータウン 「泉ヶ丘駅前活性化計画」 ※2	－億円	－億円
社会経済的向上とエンパワーメント （地方創生・地域活性化）	キーノ和歌山	2 億円	－億円
計		1 0 0 億円	－億円

※1 2025年4月に泉北高速鉄道は南海電気鉄道へ吸収合併されていますが、本サステナビリティボンドの資金使途として過去に導入された車両は、現在も南海電鉄泉北線の車両として使用されています。

※2 計画の見直しにより駅前商業施設の竣工・開業が2028年度予定となったことを受け、資金充当先を「新型通勤車両8300系（6000系等代替）導入」へ変更いたしました。詳細はP4をご覧ください。

◆新規ファイナンスとリファイナンスの割合

- 2026年3月末時点で充当済の100億円について、新規ファイナンスとリファイナンスの割合は以下の通りです。
 新規ファイナンス ： 48億円
 リファイナンス ： 52億円



資金使途の変更について

泉北ニュータウン「泉ヶ丘駅前活性化計画」

- 当社は、2023年8月に、「泉ヶ丘駅前活性化計画」（以下、「本計画」）に関する新築建設工事延期および事業計画見直しを公表いたしました。その後、2026年1月に、本計画の再始動を発表し、「未来の世代まで豊かに暮らしやすい泉ヶ丘」の実現を掲げ、本計画を進めております。
- 当社は、2023年3月に発行した南海電気鉄道株式会社第51回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（サステナビリティボンド）（以下、「本サステナビリティボンド」）により調達した資金の一部を、本計画に充当する予定としておりました。
- しかしながら、本計画の見直しにより駅前商業施設の竣工・開業が2028年度予定となったことを受け、投資家の皆様よりお預かりした資金を、可能な限り速やかに適格プロジェクトへ充当する観点から、この度、本サステナビリティボンドの資金充当先を変更いたしました。
- 変更後の資金充当先については、当社が2023年2月に策定した「サステナビリティファイナンス・フレームワーク」に基づき、以下のとおりいたしました。

（変更前）

- 資金使途：泉北ニュータウン「泉ヶ丘駅前活性化計画」に係る設備投資資金
- 充当予定額：6億円

（変更後）

- 資金使途：新型通勤車両8300系（6000系等代替）の導入資金
- 充当額：6億円

【ご参考】

「泉ヶ丘駅前活性化計画」の新築建設工事延期および事業計画見直しについて（2023年8月リリース）

<https://www.nankai.co.jp/news/230824.html>

南海電鉄と堺市が“公民連携”で泉ヶ丘駅前地域を再整備！ & 南海電鉄による「泉ヶ丘駅前活性化計画」が再始動！（2026年1月リリース）

<https://www.nankai.co.jp/news/260128.html>

新型通勤車両8300系（6000系等代替）、9300系（旧泉北高速鉄道3000系代替※）導入

◆導入車両の概要

- 車両の新造・改良を行い、より安心・快適に利用いただける環境づくりに努めています。
南海線・高野線を運行する8300系は、従来車両（6000系等）と比較して消費電力が約半分に抑制でき、車内外への騒音を低減する等、人と環境に優しい省エネ車両となっています。
また、南海電鉄泉北線では、2023年8月に新型通勤車両9300系を導入し、消費電力は従来車両（3000系）と比較して約半分となります。
 - なお、8300系及び9300系は、4か国語に対応した車内案内表示器を設置するなど、環境に優しく、すべての人が安全で快適に使いやすい車両となっています。
- ※ 2025年4月に泉北高速鉄道は南海電気鉄道へ吸収合併されていますが、本サステナビリティボンドの資金使途として過去に導入された車両は、現在も南海電鉄泉北線の車両として使用されています。



8300系



9300系

◆環境改善効果に係る指標

導入車両数	72(両)
CO2排出量削減効果の推計値 (従来車両比)	1,449.1(t-CO2)

CO2排出量削減効果の推計値は、上記導入車両の直近年度における走行状況に応じた1年間の排出量の新旧差の合計を示しています

(2026年3月末時点)

北大阪トラックターミナル1号棟、大阪府食品流通センターE棟

◆ 物件の概要、グリーンビルディング認証の取得状況

- 北大阪流通センターを関西圏における一大物流拠点とすべく、物流施設の高度化に取り組んでいます。
その起点として、2020年4月に北大阪トラックターミナル1号棟が竣工しました。
また、大阪府食品流通センターE棟も2023年3月に竣工しました。
- 今後も、社会基盤を支える物流拠点の機能強化を図っていくとともに、環境性能やテナント利便性、オーナーや物件関係者の取組み等を評価する DBJ Green Building 認証の取得や、自然災害への備え、EVトラックの充電スペース設置など、物流業界・社会全体のニーズに合わせた施設づくりを進めていきます。

北大阪トラックターミナル1号棟 概要

- ◇所在地 大阪府茨木市宮島二丁目
- ◇竣工 2020年4月
- ◇延床面積 49,980㎡
- ◇構造 地上4階建
- ◇環境対応 LED照明、外壁サンドイッチパネル
- ◇環境性能 DBJ Green Building認証 5つ星※1



※1 2025年4月に4つ星から5つ星へ評価向上
 ※2 2025年4月に3つ星から4つ星へ評価向上

大阪府食品流通センターE棟 概要

- ◇所在地 大阪府茨木市宮島一丁目
- ◇竣工 2023年3月
- ◇延床面積 49,975㎡
- ◇構造 地上4階建（事務所部7階建）
- ◇環境対応 屋上太陽光発電設備、
LED照明、外壁サンドイッチパネル
- ◇環境性能 DBJ Green Building認証 4つ星※2



◆ 環境改善効果に係る指標

エネルギー効率 (削減されたエネルギー消費量)	20,542,001(MJ)
CO2排出量削減効果の推計値	873(t-CO2)

(2026年3月末時点)



和歌山市駅前の中心市街地活性化「キーノ和歌山」

◆「キーノ和歌山」の概要

- 南海本線の南端である和歌山市駅において、和歌山市と共同で「和歌山市駅活性化計画」を市街地再開発事業として推進しました。
キーノ和歌山は当該再開発計画に伴い建設されたオフィスゾーン、商業ゾーン、ホテル、和歌山市民図書館等で構成される複合施設で、2020年6月にグランドオープンしました。
- 地域食材を扱う和歌山県内のサプライヤーによる産直売場の提供や天井・通路での紀州材使用など施設全体で和歌山らしさを感じることができ、医療施設等を含む多様な都市機能を充実させ、交流人口の増加とにぎわいの創出により、和歌山市駅周辺地域の活性化や魅力向上に貢献しています。

キーノ和歌山 概要

- ◇施設構成 オフィス、商業ゾーン、ホテル、
公益施設（和歌山市民図書館）等
- ◇延床面積 ・オフィス棟 約6,200㎡
・商業棟 約8,600㎡
・ホテル棟 約6,000㎡
・和歌山市民図書館 約9,600㎡



◆社会的便益に係る指標

和歌山市駅の一日平均乗降人員数 (2025年度)	15,665(人)
-----------------------------	-----------

